

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)

【公表番号】特表 2003-509467 (P2003-509467A)
 【公表日】平成 15 年 3 月 11 日 (2003.3.11)
 【出願番号】特願 2001-524618 (P2001-524618)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
A 6 1 K 31/569 (2006.01)
A 6 1 P 5/04 (2006.01)
A 6 1 P 5/26 (2006.01)
A 6 1 P 15/00 (2006.01)
A 6 1 K 38/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 31/569
 A 6 1 P 5/04
 A 6 1 P 5/26
 A 6 1 P 15/00
 A 6 1 K 37/43

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 9 月 18 日 (2007.9.18)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 L H R H アンタゴニスト、場合により避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の薬剤を、場合により製剤学的に認容性の付形剤と一緒に、子宮内膜組織の子宮外の増殖、慢性骨盤痛およびファロピウス管閉塞症 (F T O) を治療するための製剤学的組成物において、L H R H アンタゴニストをこれを必要とする患者に約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療で投与し、引き続き L H R H アンタゴニストの投与を中止し、かつ場合により避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の薬剤と一緒にまたは別々に患者に投与することを特徴とする、子宮内膜組織の子宮外の増殖、慢性骨盤痛およびファロピウス管閉塞症 (F T O) を治療するための製剤学的組成物。

【請求項 2】 L H R H アンタゴニストは、エストロゲン血清濃度レベルが約 35 pg / ml ~ 約 80 pg / ml、有利には約 45 ~ 75 pg / ml、より有利には約 50 ~ 75 pg / ml であるように投与される、請求項 1 に記載の製剤学的組成物。

【請求項 3】 L H R H アンタゴニストを用いた短期誘導治療の後に避妊薬、有利には経口避妊薬を投与する、請求項 1 または 2 に記載の製剤学的組成物。

【請求項 4】 L H R H アンタゴニストを用いた短期誘導治療の後に非ステロイド性の抗リウマチ薬を投与する、請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 5】 L H R H アンタゴニストを用いた短期誘導治療の後に鎮痛薬を投与す

る、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 6】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に 17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンを投与する、請求項 1 から 5 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 7】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に、避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤を組合わせてまたは別々に投与する、請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 8】 LHRH アнтаゴニストは、卵胞期の初期から中間、有利には 1 ~ 3 日のサイクルで投与が開始される、請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 9】 LHRH アнтаゴニストは、セトロレリックス、テベレリックス、ガニレリックス、アンチド、アバレリックスおよび D - 6 3 1 5 3 から成る群から選択される、請求項 1 から 8 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 10】 LHRH アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に 1 週間あたり約 3 ~ 10 mg の 1 週間単位の用量で投与される、請求項 1 から 9 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 11】 LHRH アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に約 0.25 mg ~ 約 0.5 mg / 日の 1 日単位の用量で投与される、請求項 1 から 10 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 12】 LHRH アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に一ヶ月あたり約 12 mg ~ 40 mg の一ヶ月単位の用量で投与される、請求項 1 から 11 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 13】 LHRH アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の誘導治療用に与えられ、かつ該治療を 1 年間に 2 ~ 3 回繰り返す、請求項 1 から 12 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 14】 避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤を同じまたは別々の剤形で投与する、請求項 1 から 13 のいずれか 1 項に記載の製剤学的組成物。

【請求項 15】 子宮内膜組織の子宮外の増殖、慢性骨盤痛および / またはファロピウス管閉塞症 (FTO) を治療するための医薬を製造するための LHRH アнтаゴニストの使用において、LHRH アнтаゴニストを約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の形でこのような治療を必要とする患者に投与し、次に LHRH アнтаゴニストの投与が中止されることを特徴とする、LHRH アнтаゴニストの使用。

【請求項 16】 LHRH アнтаゴニストは、エストロゲン血清濃度レベルが約 35 pg / ml ~ 約 80 pg / ml、有利には約 45 ~ 75 pg / ml、より有利には約 50 ~ 75 pg / ml であるように投与される、請求項 15 に記載の LHRH アнтаゴニストの使用。

【請求項 17】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に避妊薬、有利には経口避妊薬を投与する、請求項 15 または 16 に記載の LHRH アнтаゴニストの使用。

【請求項 18】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に非ステロイド性の抗リウマチ薬を投与する、請求項 15 から 17 までのいずれか 1 項に記載の LHRH アнтаゴニストの使用。

【請求項 19】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に鎮痛薬を投与する、請求項 15 から 18 までのいずれか 1 項に記載の LHRH アнтаゴニストの使用。

【請求項 20】 LHRH アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に 17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンを投与する、請求項 15 から 19 ま

でのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 1】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に、避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤を組合わせてまたは別々に投与する、請求項 1 5 から 2 0 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 2】 L H R H アнтаゴニストは、卵胞期の初期から中間、有利には 1 ~ 3 日のサイクルで投与が開始される、請求項 1 5 から 2 1 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 3】 L H R H アнтаゴニストは、セトロレリックス、テベレリックス、ガニレリックス、アンチド、アバレリックスおよび D - 6 3 1 5 3 から成る群から選択される、請求項 1 5 から 2 2 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 4】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に 1 週間あたり約 3 ~ 約 10 mg の 1 週間単位の用量で投与される、請求項 1 5 から 2 3 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 5】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に約 0 . 25 mg ~ 約 0 . 5 mg / 日の 1 日単位の用量で投与される、請求項 1 5 から 2 4 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 6】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の短期誘導治療の間に一ヶ月あたり約 12 mg ~ 約 40 mg の一ヶ月単位の用量で投与される、請求項 1 5 から 2 5 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 7】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 12 週間の誘導治療用に与えられ、かつ該治療を 1 年間に 2 ~ 3 回繰り返す、請求項 1 5 から 2 6 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストの使用。

【請求項 2 8】 子宮内膜組織の子宮外の増殖、慢性骨盤痛および / またはファロピウス管閉塞症 (F T O) を治療するための医薬を製造するための、L H R H アнтаゴニストおよび避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤の使用において、L H R H アнтаゴニストを約 4 ~ 12 週間にわたる短期誘導治療の形でこのような治療を必要とする患者に投与し、次に L H R H アнтаゴニストの投与が中止され、かつ避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤と一緒にまたは別々に患者に投与することを特徴とする、L H R H アнтаゴニストおよび避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、17 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 2 9】 L H R H アнтаゴニストは、エストロゲン血清濃度レベルが約 35 pg / ml ~ 約 80 pg / ml、有利には約 45 ~ 75 pg / ml、より有利には約 50 ~ 75 pg / ml であるように投与される、請求項 2 8 に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 0】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に避妊薬、有利には経口避妊薬を投与する、請求項 2 8 または 2 9 に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 1】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に非ステロイド性の抗リウマチ薬を投与する、請求項 2 8 から 3 0 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 2】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に鎮痛薬を投与する、請求項 2 8 から 3 1 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 3】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に 1 7 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンを投与する、請求項 2 8 から 3 2 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 4】 L H R H アнтаゴニストを用いた短期誘導治療の後に、避妊薬、有利には経口避妊薬、非ステロイド性の抗リウマチ薬、鎮痛薬、1 7 - - アルキル置換されたテストステロン以外のアンドロゲンまたはこれらの組合せ物から成る群から選択される 1 種以上の活性剤を組合わせてまたは別々に投与する、請求項 2 8 から 3 3 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 5】 L H R H アнтаゴニストは、卵胞期の初期から中間、有利には 1 ~ 3 日のサイクルで投与が開始される、請求項 2 8 から 3 4 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 6】 L H R H アнтаゴニストは、セトロレリックス、テベレリックス、ガニレリックス、アンチド、アバレリックスおよび D - 6 3 1 5 3 から成る群から選択される、請求項 2 8 から 3 5 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 7】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 1 2 週間の短期誘導治療の間に 1 週間あたり約 3 ~ 1 0 m g の 1 週間単位の用量で投与される、請求項 2 8 から 3 6 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 8】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 1 2 週間の短期誘導治療の間に約 0 . 2 5 m g ~ 0 . 5 m g / 日の 1 日単位の用量で投与される、請求項 2 8 から 3 7 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 3 9】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 1 2 週間の短期誘導治療の間に一ヶ月あたり約 1 2 m g ~ 4 0 m g の一ヶ月単位の用量で投与される、請求項 2 8 から 3 8 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。

【請求項 4 0】 L H R H アнтаゴニストは、約 4 ~ 1 2 週間の誘導治療用に与えられ、かつ該治療を 1 年間に 2 ~ 3 回繰り返す、請求項 2 8 から 3 9 までのいずれか 1 項に記載の L H R H アнтаゴニストおよび 1 種以上の活性剤の使用。